

# 蜜蜂の伝染病に注意しましょう！

神奈川県畜産課  
令和5年12月作成

蜜蜂にも様々な病気があります。  
ここでは、家畜伝染病予防法で指定されている  
伝染性疾病について紹介します。

## ◆ふそ病◆

蜜蜂の蛹と幼虫が腐る、細菌が原因の病気です。原因菌の違いにより、**アメリカふそ病**と**ヨーロッパふそ病**に分類されます。

### アメリカふそ病 原因菌：*Paenibacillus larvae*

感染した幼虫は、巣房に蓋がされた後に死ぬことが多く、死んだ幼虫はネバネバとした状態になり、茶色から黒色へと変化します。

巣房の蓋は黒ずみ、張りを失ってへこみ、膠（にかわ）臭がします。



写真：（一社）日本養蜂協会より

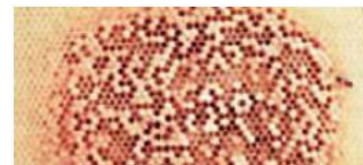
巣房に差し込んだ棒を引き出すと糸を引きます

### ヨーロッパふそ病 原因菌：*Melissococcus plutonius*

感染した幼虫は、巣房に蓋がされる前に死ぬことが多く、死んだ幼虫は成虫によって巣から排除されます。

排除されない場合は、張りがなくなり、乳白色から褐色の水っぽい状態になります。

巣房は蓋のあるものとなないものが混在し、発酵臭、酸臭がすることがあります。



写真：（一社）日本養蜂協会より

ふそ病が発生した場合、本病の蔓延防止のために**発生蜂群を焼却等**します。盗蜂（ミツバチが他の巣の蜜を盗む行為）も感染原因となるため、**発生蜂群への早期の対応が大切です。**

予防のために、適正な管理を行い、蜂群を強く保つように心がけましょう。使用した蜂具等は洗浄・消毒しましょう。巣板は、一定期間で取り替えましょう。

次のページに続きます

## ◆バロア病◆

ミツバチヘギイタダニが原因です。蜂児に寄生し、体液を吸うため発育障害を引き起こします。

対策としては、殺ダニ剤等が有効ですが、薬剤に耐性を持つダニも確認されています。



## ◆アカリダニ症◆

アカリダニが原因です。本県でも発生が確認されています。重度寄生があると、呼吸困難、飛翔不能などがみられ、越冬期の蜂数が激減します。

現在、有効な薬剤はありません。

対策としては、冬季に蜂群を弱らせない適正な管理の実施が重要です。

気管に寄生するダニ虫卵



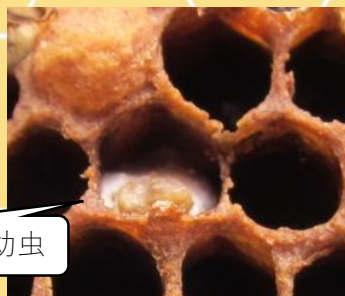
## ◆チョーク病◆

ハチノスカビが幼虫に感染することが原因です。感染死した幼虫は菌糸に覆われチョーク様に見えます。

現在、有効な薬剤はありません。

対策としては、蜂群を強勢に維持し、蜂場の風通しをよくすることが重要です。また、器具の熱湯消毒、火炎滅菌などの対策が有効です。

感染死した幼虫



カビの菌糸

カビの胞子嚢



## ◆ノゼマ病◆

ノゼマ原虫が原因でおこる成蜂の消化管疾患です。早春に発生し、腹部膨満、飛翔不能、寿命短縮等が見られます。

わが国では許可された有効な薬剤はありません。

対策としては蜂群を強勢に保つとともに、器具資材の消毒など基本的な衛生管理を徹底することが重要です。

蜜蜂の伝染病かな？  
と思ったら  
すぐに家畜保健衛生所に  
ご連絡ください。



県央家畜保健衛生所

〒243-0417 海老名市本郷3678

TEL 046-238-9111

FAX 046-238-9124

湘南家畜保健衛生所

〒259-1215 平塚市寺田縄345

TEL 0463-58-0152

FAX 0463-58-5679